

2022年8月25日(木)

老球の細道685号

## 名コーチとの出会い「世界のコーチ、トステイン・ロイブル」②

会津バスケットボール協会 室井 富仁

出会いは出会いを生む。素晴らしい出会いは連鎖的である。次から次へと未知なる衝撃的な出会いを導いてくれる。トステイン氏と出会えたのは埼玉大宮北高校の佐藤光彦氏との出会いからである。

佐藤氏は現在埼玉県バスケットボール協会の理事を務め、JBAにおいても指導者育成委員会などでスタッフを務める日本バスケットボール界の重鎮である。2017年八村塁を擁してU-19ワールドカップに出場した時に、ヘッドコーチ、トステイン氏のアシスタントコーチを務めた。またbjリーグ時代の「レラカムイ北海道」チームでトステイン氏の代行でヘッドコーチも務めたこともある本格派コーチである。

大宮北高校はチームとしてはごく普通の選手ばかりなので全国大会には縁がないが、彼の指導にかかると、勝ちほしくないが、どんな強いチームと戦ってもそこそこのゲームをすることができる。基本に忠実で、それがチーム全員に浸透している。選手が毎年変わるのだが、彼のチームは毎年「佐藤光彦の大宮北高校」でコーチングフィロソフィーが傍から見ても明確である。トステイン氏に言わせると「佐藤光彦はファンダメンタル指導においては日本一である」という評価である。

佐藤氏と私が出会ったのは1991年12月26日から1992年1月4日に開催された「第4回アメリカコーチツアー(ロサンゼルス)」(ジャパンライム主催)においてである。私はまだ37歳で佐藤氏が20代後半だった。私は1989年に引き続いて2回目の参加になったが、1回目(第2回ツアー)がとても良かったことと、2回目はなるべく一人での行動を多くして英語会話を勉強してみようという意欲がわき再度参加することになった。もしこの時に参加を躊躇していたら佐藤氏に出会うこともなく、もちろんトステイン氏とも会うことはなかっただろう。当時の冬のボーナスは私のアメリカ研修にほとんど消えてしまったが、カウントワンスローのボーナススローはその後ずっと続くことになる。

思い起こせば、このツアーに参加したのは全国から20人位で福島県は私を含めて5人いた。会津からは当時共に情熱を燃やしていた稲村忠右衛門氏(元会津学鳳高校コーチ)、須賀川から鈴木利広、仁美夫妻(現須賀川アカデミックバスケットボールクラブ)、有馬善孝氏(現県南バスケットボール協会副会長)が参加した。皆若くて情熱満載でギラギラしていた時代であった。佐藤氏は教育実習で知り合った奥さんと参加していた。

ツアーの内容はNBA、NCAA、ハイスクールの試合観戦、NCAA著名大学の練習見学とクリニック(UCLA、USC、ロヨラ・メリーマウンド大学、カリフォルニア州立ドミンゲスヒル校)などであった。12月31日と1月1日はバスケットボール行事が休みだったので自由時間。自由時間は団体行動から離れて12/31は稲村氏と「グランドキャニオン」観光に出かけ、1/1はロサンゼルス美術館などを一人で巡り歩いた。(続く)